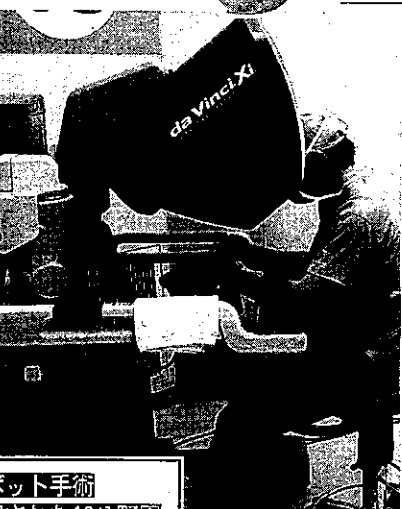


12分野に拡大 保険が効くロボット手術の現場

がん治療などで4月から新たに12分野のロボット支援手術(ダヴィンチ治療)以下、ロボット手術と略)が保険適用された。ダヴィンチという医療機器のロボットアームの先端を患者の体に入れ、医師が遠隔操作しながら手術する治療法だ。2012年に前立腺がんの前立腺全摘術、16年には腎がんの部分切除、そして、今回一気に12分野でのロボット手術が認められたのだ。医療現場はどのように変わるのか。その課題も含め、5回にわたってレポートする。

がん治療などでは、患者はロボット手術の恩恵を受けられ、自己負担軽減の利点も大きい。ただし、まだ誰も受けられるとは限らないのが現状だ。「今回の保険収載でも、施設認定基準が定められており、どの施設でもすぐにロボット手術が導入できるわけではありませんが、現在、日本ロボット外科学会では登録システム構築を行っており、安全性の高いロボット手術を普及させるため、今年2月、開催された第10回

ロボット手術を行う千川主任教授(帝京大学医学部附属病院)



「ロボット手術は、歴史の浅い領域です。分野によっては指導できる医師の数もまだ少ない。普及には時間がかかりますが、経験豊富な腹腔鏡や胸腔鏡による手術で、安心して手術を受けられた方がよいこともあるでしょう。冷静に判断することが大切です」

50万〜150万円以上の患者負担が軽減

4月からロボット手術 適用された12分野

- ①左右の肺の間に位置する縦郭の悪性腫瘍の手術
- ②縦郭の良性腫瘍の手術
- ③肺がんでの肺葉切除(肺は5つの肺葉から成り立つ)
- ④食道がんの手術
- ⑤心臓の弁形成術
- ⑥胃を切除する手術
- ⑦胃の上側(贛門側)の手術
- ⑧胃を全部取る手術(全摘術)
- ⑨直腸(大腸の肛門に近い部分)の切除・切断の手術
- ⑩膀胱がんの手術
- ⑪子宮体がんの手術
- ⑫腔式子宮全摘術(良性腫瘍に対する手術)

12分野に拡大 保険が効くロボット手術の現場

がん治療などの医療現場では行っていないと。場、今月から一気に12分野の保険収載が決定したロボット支援手術(ダヴィンチ治療)以下、ロボット手術と略)が保険適用された。ダヴィンチという医療機器のロボットアームの先端を患者の体に入れ、医師が遠隔操作しながら手術する治療法だ。2012年に前立腺がんの前立腺全摘術、16年には腎がんの部分切除、そして、今回一気に12分野でのロボット手術が認められたのだ。医療現場はどのように変わるのか。その課題も含め、5回にわたってレポートする。

「以前から導入されている腹腔鏡下手術や胸腔鏡下手術と、ロボット手術の値段はほぼ同じになっています。技術的にロボット手術の方が優れていると証明されたわけではなく、現時点でロボット手術を受けられない患者さんが嘆く必要はないと思っています」

「ロボット手術は、歴史の浅い領域です。分野によっては指導できる医師の数もまだ少ない。普及には時間がかかりますが、経験豊富な腹腔鏡や胸腔鏡による手術で、安心して手術を受けられた方がよいこともあるでしょう。冷静に判断することが大切です」



「今回の診療報酬改定で、ロボット手術が保険適用とされています。これは、以前から導入されている腹腔鏡下手術や胸腔鏡下手術と、ロボット手術の値段はほぼ同じになっています。技術的にロボット手術の方が優れていると証明されたわけではなく、現時点でロボット手術を受けられない患者さんが嘆く必要はないと思っています」

「ロボット手術は、歴史の浅い領域です。分野によっては指導できる医師の数もまだ少ない。普及には時間がかかりますが、経験豊富な腹腔鏡や胸腔鏡による手術で、安心して手術を受けられた方がよいこともあるでしょう。冷静に判断することが大切です」



ダヴィンチを備えた帝京大学医学部附属病院(東京都板橋区)

「ロボット手術は、歴史の浅い領域です。分野によっては指導できる医師の数もまだ少ない。普及には時間がかかりますが、経験豊富な腹腔鏡や胸腔鏡による手術で、安心して手術を受けられた方がよいこともあるでしょう。冷静に判断することが大切です」

経験豊富な医師の腹腔鏡や胸腔鏡手術が良い場合も

「ロボット手術は、歴史の浅い領域です。分野によっては指導できる医師の数もまだ少ない。普及には時間がかかりますが、経験豊富な腹腔鏡や胸腔鏡による手術で、安心して手術を受けられた方がよいこともあるでしょう。冷静に判断することが大切です」

(安達純子)